



伊地知文庫

文庫20

407



文庫20
407



伊地知氏書冊

太上天皇

うみひろきしゆほくゆつりゆりほ標
のそくくしゆくしゆくのみとせ

前坊

ほりゆきしゆくしゆくのみとせ

秋の平宮 母六條御息所

わあひのしゆくしゆくのみとせ
ゆきしゆくしゆくのみとせ
ゆきしゆくしゆくのみとせ
ゆきしゆくしゆくのみとせ



一平らに流るる水も山もさかす

枕詞式ア御文 うしろのそとに流るる水も

さかす

権歌謡

あもふ雲のこころもさかす
しらけし水もさかす
さかす

三言

流るる水もさかす

さかす

女入宮

りまのうらみもさかす

朱雀院

母は溺る大后

桐葉のそとに流るる水も
さかす
わかれとて流るる水も
さかす

一箇のしるしにのたま

母長右衛門

明石のちのち二殿のちのちのち
まゝにじうのちのちのちのち
しるしにのたま

女一人

しるしにのたま

落葉文

母一條中兵衛

落葉文のちのちのちのちのち

成徳のちのちのちのちのち

二品の親王 母先帝御女

つるのちのちのちのちのち

しるしにのたま

女一人

つるのちのちのち

春宮

母明石中兵衛

落葉文のちのちのちのちのち

大ゆ〜千〜ゆ〜ひ〜千〜ま〜、六〜年〜信〜じ
久〜始〜前〜れ〜し〜ゆ〜も〜ま〜ら〜ん〜し〜ゆ〜り〜ゆ〜れ〜津
京〜金〜よ〜ま〜い〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
の〜ま〜い〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

右衛門信 母ニ奉答

若草下 律 菅 窪 山 翠 の 試 樂 の 心
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

今ゆ〜日申文の沖使も〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

申酒之 母 爲 月 付 の 寸 也

六 條 窪 山 律 菅 窪 山 翠 の 試 樂 の 心
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

右左平 母ニ奉答

白雲のきよみのこころをいひてはなれり
惟りしよきほりしりしりしりしりしり
こころ下よきききききききき

侍従宰相 母不審

惟りしよきききききききききききき
るりりりりりりりりりりりりりりり

源宰相中侍

りしよきききききききききききき
日宰相中侍惟りしりしりしりしりしり

入りりりりりりりりりりりりりりりり
あうりりりりりりりりりりりりりりり

頭中侍 母不審

竹河の源がねりしりしりしりしりしり
六ききききききききききききききき
のほりりりりりりりりりりりりりりり
惟りしりりりりりりりりりりりりりり

侍従中侍 母不審

一 舟中より舟の時は後川に流るの
りし中より舟の時は舟の時は舟の時は
舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

三

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

舟の時は舟の時は舟の時は舟の時は

あしやう。

侍従 母のあしやう

あしやうは六のあしやうからあしやうまで
あしやう

童あしやう

同

あしやうは下あしやうのあしやうであしやう
あしやう

あしやう 母あしやう

あしやうはあしやうあしやうあしやうあしやう

あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう

あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう

あしやうあしやう

あしやう

あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう

あしやう

あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう
あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう
あしやうあしやうあしやうあしやうあしやう

八三

母に宛て

さういふうらなひの御座るに

しり候はれども其の交り

縁角大君

母に宛て

わが身をいかに守らるる

申す君

母に宛て

わが身をいかに守らるる

廿二降信入り

ら君

母に宛て

わが身をいかに守らるる

わが身をいかに守らるる

母に宛て

わが身をいかに守らるる

わが身をいかに守らるる

わが身をいかに守らるる

侍足

母に宛て

文君

母に宛て

わが身をいかに守らるる

わが身をいかに守らるる

谷家院 母宮女院

昔よまうたの多かき、河邊とてりし
母御位より下よおりのあはれ
あはれ

一交 母御位より

かきしつゝ行はる

かきしつゝ 母御位より

いふことあり

かきしつゝ 母御位より

行はるかきしつゝのあはれ

一交

母御位より

かきしつゝのあはれ

かきしつゝ

一交

いふことあり

昔よまうたの多かき、河邊とてりし

母御位より下よおりのあはれ

あはれ

先帝

武平天皇

うらひのきふくまのまはりのしづか
にさか

高雲女冠

高雲女冠

初つゆの由りてはるのまはりのしづか
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの

あはれとまはりのまはりのまはりの

源氏言 母又家

まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの

源氏言

まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりのまはりの

若君

東宮御所御覽に試みの日皇座草紙

中将

侍従

民部左輔

くらん人...の君と侍とある

...の時又...の...

相澤思右将軍

大...の...

世... 母...

十...の...

...の...

冷泉院... 母...

...の...

...の...

常陸言

阿闍梨

源氏の...

...の...

達生書

東橋のありし源氏をのりし
事候しつらひに

二 橋政を政大に

桐壺・后大にゆく源氏をのりし
人々のありし事候しつらひに
政大にゆく橋政をのりし
正月一日

相争ひし人なりし事候しつらひに
源氏をのりし事候しつらひに
政大にゆく橋政をのりし
事候しつらひに

后大

源氏をのりし事候しつらひに
人々のありし事候しつらひに

とろりしるのくさくさーたくめき
花弁もこぼれぬ

藤太御云

まゝもす

いづれも波はらみまへ風の吹流
のゆくしゆくーゆりゆり人かき
れまよしゆくしゆくーゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ていゆりゆりゆりゆりゆり

長

母がぬきぬき

貴のそく音れまよゆり

物もぼたゆき

母二階をぬきぬき

しゆくしゆくがゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

お梅右大臣

母云

物もぼたゆきゆりゆりゆり

ちゆふらひんかごうくくく元服初書
よすの得志業もらふ功弁同りし久
弁物少に大物こころりりり時一陳
文の心せしとてれんせししよき
後しつらうもいんさうくくあゆみ
折巻大物しよみゆ行河しあふ酒さか
大将しつらう名んはし成物とさうり又
折りし句文のしつらうてあゆみ
くくくくくくあふ酒さしこの人あ
し高本わらうやうくくくく折巻大物

ちま

あゆみちまうくくあふ酒さしこの人あ
のしつらうゆきりん

素直の節 母の書

あゆみちまうくくあふ酒さしこの人あ

中書 母の書

戸家門書

あゆみちまうくくあふ酒さしこの人あ

藤宰相

君業下が天意のつる人いん
ハクミのむらじくもあつた
しんこうの才もあつた
又とていふもあつた
後よりいふ人もあ

物中侍

花人の侍

いん人のむらじくのむらじくもあつた
いん人のむらじくのむらじくもあつた

いん人

ゆられよのつとまり又又
あつたよのつとまり又又
はつたよのつとまり又又
よのつとまり又又
よのつとまり又又
よのつとまり又又
よのつとまり又又

八節看

あつたよのつとまり又又
あつたよのつとまり又又
あつたよのつとまり又又
あつたよのつとまり又又

正好景尚侍 母又都

このころからいふところも
けいけいけいけいけいけい
まゝいふところもいふところ
いふところのいふところ

はあなま

うきうきうきうきうきうき
夕霧久保屋 母持善久物とのいふ

きよのきよきよきよきよ

魚江志

あはれいふところいふところ

二條をいふ

本持屋のいふところいふところ
うきうきいふところいふところ

藤太のいふ

元年

あはれいふところいふところ
素直な女

未登院沙汰の将大常柿しる

日修り将

らくゆゑ 瘰癧の毒 流るる波成る
りくゆゑ 流るる毒 流るる波成る
りくゆゑ 流るる毒 流るる波成る

石中井

いづれか 浪成り月夜のはまき
りくゆゑ 流るる毒 流るる波成る
りくゆゑ 流るる毒 流るる波成る

亮うしころとひくく

儿殿殿大后

朱花院の御母わりの御をる

流るる毒 流るる波成る

肺言いんげんしる

死のえんせきしる

教は人信る

言ふしる

久君

えんせきしる

勝月尺尚侍

春よ未春尾よまのてんくも後し
やの林の二月も尚侍つゝのた
うりね六人きり

左大臣

みゆのりゆは松栞がまきもよ
て左大臣の人も

女御

冷泉院の御時御

大藏卿

修理大臣

けいん女御の

女御

高倉女御

今よままはゆ所りまの
の中まよゆれねま
まよまよゆれねま
よままよゆれねま
まよまよゆれねま
まよまよゆれねま

左大臣

如 竹河の左大臣

夕暮のゆくし御子宰相中侍御
ゆしやえししれわししうらむ

大臣

六條御息所

十のめく木坊くしうりぬ
申文とくうらう千うくあせとく統

清井めくじさうのあふらうし
あはくしうりかきしうらむ
りしうらむ

大臣

如 御

宇治のいふれ御

大臣

宇治のいふれ御

水まじりくぐりぬぐるははる
しりのきりかめ

常流のわ

しらりまのたれいりいしんね君
くまーくまーくまーくまーくまー
のらーのらーのらーのらーのらー
くまーくまーくまーくまーくまー

右大臣

今より仰 祝文 明石 右大臣 へ

新治 右大臣

明 堀 右大臣 へ 業 くら へ 物 持 高
下 右大臣 へ くら へ 物 持 高 へ 新
奉 右大臣 へ くら へ 物 持 高 へ 新
くまーくまーくまーくまーくまー

頼朝 将

源氏 へ くら へ 物 持 高 へ 新
くまーくまーくまーくまーくまー
くまーくまーくまーくまーくまー

長壽 寺 僧

中程の書今から母へお送り
〜若葉のり〜

藤田 潤言 母宛の二封

馬車に〜りかすりゆへあつた
竹のりか〜り母へお送り
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた

水部 潤言 母宛の二封

〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた

翠 潤言 母宛の二封

右共 潤言 母宛の二封

〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた

右大 潤言 母宛の二封

〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた
〜りかすりゆへあつた

うらと一舟まのりぬく舟を登陸の可なり
法興の日記の事あり國日記よりぬく所の
行の事たち中井の事あり事ふたふた
舟中ぬか

舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか

若葉下、雲の下の舟の事あり
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか

舟中ぬか

舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか

舟中ぬか

舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか
舟中ぬか

舟中ぬか

舟中ぬか

道場中將成りしつらきとて極くまじか
のまぢくしつらきとて極くまじか
らしき浦とてしつらきとて極くまじか
つらきとて極くまじか

ねんじの浦とてしつらきとて極くまじか
しつらきとて極くまじか
しつらきとて極くまじか

抄巻六の四

雲林院律師

源氏の命ゆらぬとて極くまじか
人なりしつらきとて極くまじか

桐壺更衣

源氏の命ゆらぬとて極くまじか
つらきとて極くまじか
つらきとて極くまじか
つらきとて極くまじか

梅若丸の四

抄巻六の四

母の命ゆらぬとて極くまじか

梅室大御言

之節君

しやふんりけいんていしん
らふんりけいんていしん

大將

有らぬしきりかた

右近守將

神のちのちかた

権中御言

右近守將

右衛門氏

源氏中らりぬしん
有らぬしきりかた
ていしんりけいん
ていしんりけいん

宣輝君

父の申物きこく
入常陸よたりて

くさりまをよき人のりて河を
すけくまきく後わいよて
二階後の東にわすまひ

右衛門督

中 母小節后

中めくら人のたむひいふ
のちくまき

夫議文ゆ御

明石乳母 母はるき有

源氏さひりてめあくま
相用へ娘まふくして終りのありぬ

ら後中將

夕都上

海江の中へ舞人せぬさえは
てむくまきくその後つらふ
て源氏よあひをふくは後
ゆきくまきくまき年十九

宰相

宰相お志

むつたきまの女房六條院に経行り
くくのさきしきく人市河を
らうおさうしきしきしきしき

冬藏藤原惟光

母大輔乳母

しきしきしきしきしきしきしき
乃系ふましきしきしきしきしき

右衛尉

きしきしきしきしきしきしき
きしきしきしきしきしきしき
ゆりしきしきしきしきしきしき

左曲人侍

かきしきしきしきしきしきしき
きしきしきしきしきしきしきしき

右河内守

きしきしきしきしきしきしき

左将命

夕顔のまげりくぬけのつらさ
さしつかしのつらさ

冬河守書

夕顔のまげりくぬけのつらさ

冬河守書

源義清

君も人に人かかろうとておぼろ
おぼろとくわくくくくくくくくくくく
右中井くくくくくくくくくく

之節

しつとくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

右中井

くくくくくくくくくくくくくく

井尼

くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

伊豫伝

くしらの伊豫ふらふら半澤成くまを
1. のりり同きくしむぬ

紀伊守

源氏の中へくの中へくまを
ゆめさくしつらぬまうらひいさしむらぬ

源氏大進御

源氏大進御のく母屋のや袂うらふら
まゆ一付一負さくしんくちむらぬ
しむゆいしむゆいゆいゆいゆい

らとつらののりりて朝負射しうらね
くしむらぬ

源氏大進御

源氏のまゆいしむら源氏うらぬ
まゆ大つむらぬのら朝負射と法
くしむらぬ

常陸介

りしむらぬのちまゆいしむらぬ

源氏大進御 母あま

ふんふんふんふんふんふんふん

右道将監

ふんふんふんふんふんふんふん

音 申

ふんふんふんふんふんふんふん

源 申

源 申

サ 申

ふんふんふんふんふんふんふん

太宰方

ふんふんふんふんふんふんふん

源 申

ふんふんふんふんふんふんふん

源氏わいのとあつて人なりとて
そよめをとりつゝわいりきしめ
も源氏くともりてい

大宰中納

夕方のらめいしや

き後介

父とくきとくうりきとて
大宰にわいりきしめ
きとくうりき

次郎

三郎

いんらとくうりきとて
のりき

楊右介書

夕方のらめいしや

婦御

いんらとくうりきとて

号御

りしめいしや

のりる

右部左補

ししししししし

右補命婦 母方出の乳母

丁立つししししししししししし

ししししし

不武系為人々 以今案其之出を以て

桐壺

清涼殿更衣

桐壺更衣母

執負命婦

内侍の丁女

右大御

曲侍 桐壺の御人

右大御

大藏卿

内侍

命婦

弟本

左馬頭

右馬頭

左馬頭

右馬頭

左馬頭

右馬頭

左馬頭

右馬頭

中務

中務

左馬頭

氏部

氏部

大貳乳母

大貳乳母

揚名介

揚名介

右近

右近

若世

若世

若世

若世

若世

若世

若世

若世

一平の御のり

若世の御のり

若世の御のり

若世の御のり

左下婦

多子 世に女有

東橋乳

右門乳母

右部左補書 左補令婦
継母

東橋乳のり

女院

右後室女

弁 右つりの心あり

右中室女 世に継母

右中守 左つりの心あり
場のゆめ

中務 世に女

右足 まつひの心

右中婦

紅葉

左議左房

左右将

命婦 左下婦也

中務君 同上

女院

源内侍の子

新嘉別人

左議左房 世に左下婦
の東の事

兼香殿 世に女院

中務 まつひの心

女院 乳母

一院

修理人

奉

源内侍の侍

源内侍の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

宰相の侍

須磨

乳教里上

宰相君 夕暮の乳母

幕京女御

中將 源氏官女

主余婦

中御之君 御月堂の君

少御之君 同

中御之君 孝上女房

若ら継母

少御之乳母

中將 同

小山僧部

少将 ひさの法師より

大御少将

明石上母

明石

女父言 清祇のつとくを
のよみし人より

乳教里上

水衝石

夕暮たのむ

中將 同

所信宣方 わしの母を
たのみし母

きんぐり

明石上母

中將 源氏官女

乳教里上

幕京女御

栲澤りち

高言内侍

蓬生

侍従

大納言

大納言のり

至教里

至教里のり

新文女別当

新文女別当

新文女別当

大納言のり

大納言のり

大納言のり

繪合

香舟文別当

修理宰相のり

牛内侍のり

牛内侍のり

サ内侍のり

大納言のり

中將のり

中將のり

三人のり

左近中將のり

松凡

花教里のり

明石上母

中務親王 わきの原の

中中丸

龜人弁 くらりの

高雲

明石上母

花翁里

源朝 冷泉はあきしやき人
一平は勢の源朝より

權

權源院宣旨

花翁里

し女

權源院宣旨

左中弁 日の海師

式部左補 日

甲井唐母 えんじやうり
按察大進とあるおき

宰相若 又言はるる

式部左補

右左衛門

右大弁 一平左大弁

少将 明石姫美の女房

中丸 源氏宣旨

王命下婦

源典 る
たふぬぬの
甲子ふそあり

氏入 又言はるる
長尾中一人

左大弁 入子の日より人
松尾左大弁日人元

大内記

小内記 甲井のりよる

甲井唐母 又言はるる

右内侍母

右二姉母

玉掛書

右近

右近書

右近子

初言

中將

右近子

右近監

右近 右近書の下の

右近子

胡蝶

中近書

中近子 右近の下の

右近

右近監

玉掛書

右近書母

右近子前大進

右近

右近書

右近子の書 右近書の下の

中御之君 日

毎火

右邊

ちとま

野分

宰相君

枯ぬの女唐

内侍 日

公教里

右馬助 夕音の女入

行幸

右大臣

左大臣 日

菊

辨 ちろの女唐

馬本権

弁 ちろの女唐

右大臣 日

中侍 ちろの女唐

紫上池母

中納言

宰相 ちろの女唐

右邊

柳うえ

大刻 大刻の字もた

祝教里

内侍 内侍の中をい

右大將 右大將の字も

左家 左家の字も

左大將 左大將の字も

右大將 右大將の字も

中務 中務の字も

右家 右家の字も

中務 中務の字も

右大將 右大將の字も

内侍 内侍の字も

左大將 左大將の字も

祝教里

祝教里

右大將 右大將の字も

左大將 左大將の字も

右大將 右大將の字も

右大將

右家 右家の字も

右大將 右大將の字も

右大將 右大將の字も

右大將 右大將の字も

右大將 右大將の字も

右大將

右大將 右大將の字も

右大將

右大將 右大將の字も

中務 源氏直母

中務 源氏直母

中切之 朧月良の女言

中切之 朧月良の女言

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

若菜下

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

中切之 朧月良の女言

中切之 朧月良の女言

中切之 朧月良の女言

若菜下

中切之 朧月良の女言

右大臣 依病減之禱也

柏木の乳母

中宮女史

一 藤原長房

少将君

一葉の長右の御方
おむすの御方

権筆

一 藤原長房

右大臣

但世園の御方

夕霧の御方

鈴吉

女三女史

式部大輔

后坊

夕霧

一 藤原長房

律師

少将君

一葉の長右

大史

右近の御方

大史

大和守

一葉の長右の御方
おむすの御方

右近

一葉の長右

御方

花散里

幻

中酒云

元朝里

佛子の酒を常師

白文 列人

酒梅

梅家大酒との取組

竹川

多子の書

つれ

中將君

清紅 世子の清師

中酒のゆり

梅唯 字清

字清河多梨

字平丸乳母 年尼母

推平

河多梨

法自

河多梨

小酒徒 世子の書

河多梨 世子の書

中酒大更 白文の心

早蕨

河内郡

新井

ら野文 あじまのうら

河部

河内郡

中乃 中乃のうら

東屋

くつみの若 中のうら

ち東乃文 白文のうら

松尾若 うらのかい

乃文の若

中乃乃文

源乃乃文

乃文

乃乃文 乃乃のうら

乃乃乃 乃乃のうら

乃乃乃 乃乃のうら

乃乃

乃乃の若

乃乃乃乃 乃乃のうら

乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃 乃乃のうら

白くらのわらわしこい人やふしよらほつちまゝと
いこい人うらうらとえ

ち道 ふくむのうき

は母の乳母 まゝとら

大をら補仲信 蓋れま
なまき

は後君

目情 け方わらき
わらああり

は母れりのうしよら

白文乳母 まれのまゝとま
あゝうらうら

ち道 まゝとら

山のまゝ

ち道 あゝとら

ゆい人

うんのま うんま

精舎

ちを あゝうき

は母乳母

時方

侍後君 けのま
うらうら

は母れ乳母のちを

同ちをのちれわら

ち更 まれのまゝとら

しし移り

ちをら補仲信

河馬梨 とら
うらうら

小宰相 こさ
うらうら

ち部 ちのうき

ち酒をま ちま
うらうら

馬頭 あゝ
うらうら

まれまのま ま
うらうら

弁のり あゝ
うらうら

中丸 一子家のり書

半羽

横川 伊勢

小野 大尾 伊勢母

一系 伊息所

ちよ 伊あり書

こいし

中丸 小中丸の
ししし

同伊勢子

伊勢丸 伊家后 小中丸母
伊勢妹

サ丸

伊丸

とれ

伊師 君 伊勢の子
中丸の

藤本 中丸の
伊勢丸の

この

伊丸 伊あり書

常陸の

伊浮橋

横川 伊勢

小野 丸

えん

小丸の

伊丸 伊あり書

伊師 君

小野 丸

伊丸

石之

光原氏物語系為河之流而之古本頗能
多異同雖解為備末字之廢忘之長京
比名如取捨授人古書一本畢而今本漸射
親筆依稀奇涼切然中之同流到眼深
兼定有遺嗣欲觀者宜令治正之也

一文龜甲子曆仲春十九日

亞槐下拾遺後藤 印判





